

2021/5/28 (金)
インターネット世界旅行

ポーランド (第2回)

クラクフ、ヴロツワフ、グダニスクの巻



吉岡 芳夫

この資料は、インターネット上の情報を利用して作成しました。

ポーランド

主要都市 [\[編集\]](#)

—	都市	県	人口
1	ワルシャワ	マゾフシェ県	1,710,055
2	クラクフ	マウオポルスカ県	754,624
3	ウッチ	ウッチ県	747,152
4	ヴロツワフ	ドルヌィ・シロンスク県	633,000
5	ポズナン	ヴィエルコポルスカ県	556,022

- ヴィエリチカ岩塩坑、アウシュビッツ強制収容所などに代表される14の世界遺産が点在するポーランドは、訪れる街によって様々な顔を持ち、旅先で色々な体験・経験ができる国です。
- 発展を続ける首都ワルシャワ、昔からの面影を残す歴史都市クラクフ、小人が住む街ヴロツワフなど個性豊かな観光地が旅先で待っています。
- 2016年1月からはLOTポーランド航空が日本から就航し、ますます身近になります。

クラクフ



クラクフの中心部をなす旧市街は、1978年に「クラクフ歴史地区」としてユネスコの世界文化遺産に登録されて以来、世界的に有名になりました。

このため、中央広場周辺は連日国内や海外からの観光客で溢れ、大変な混雑ぶり。

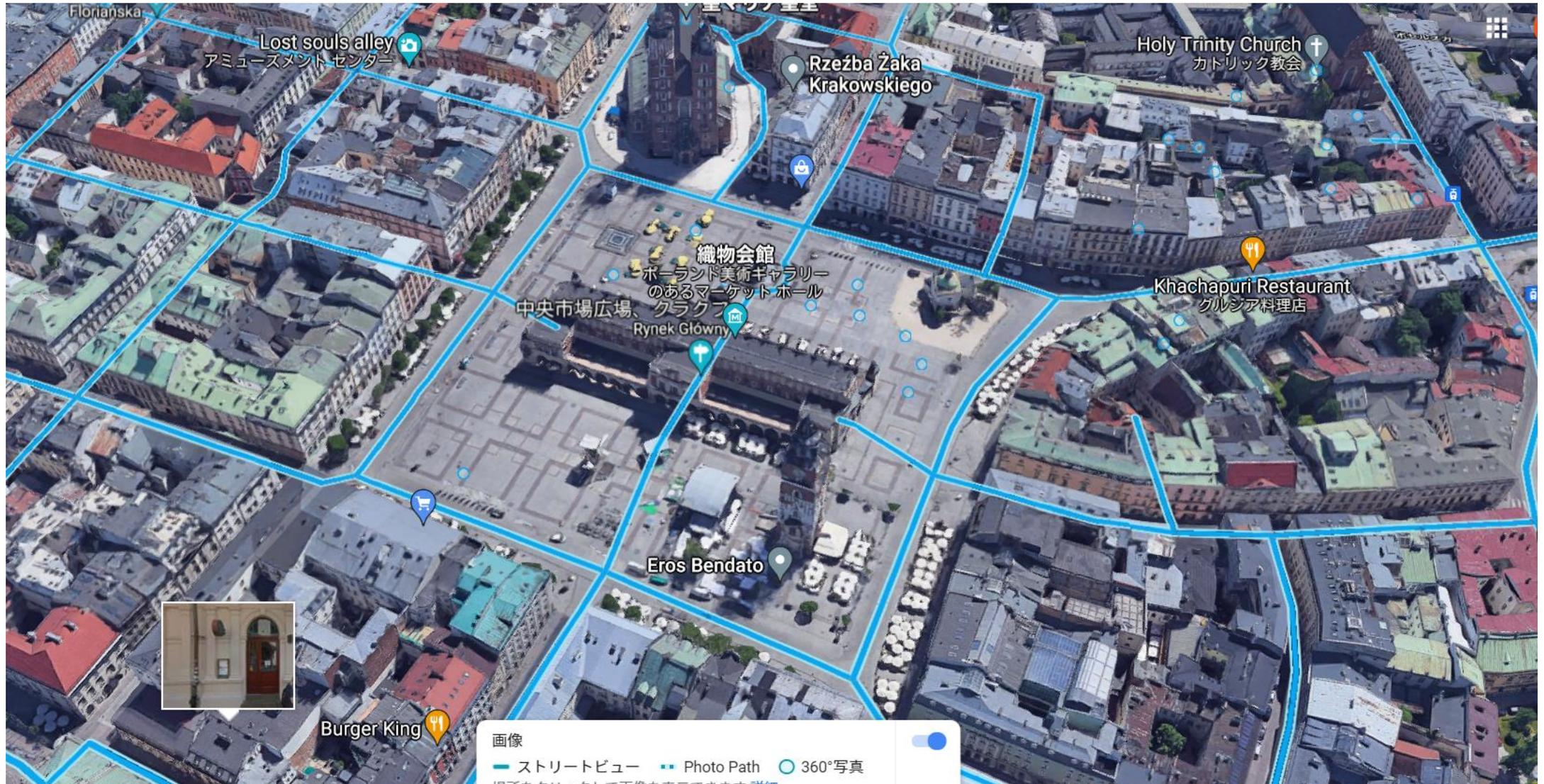
クラクフの見どころ、レストラン、ホテルのほとんどが、この南北1.4km、東西1kmほどしかない旧市街地区に集中しているのだから、それも納得です。

おおむね徒歩で観光できるクラクフは、日本人にとっても訪れやすい街といえます。

ヴァヴェルの竜 - Google マップ

中央市場広場

織物会館



[クラクフ, マウォポルスカ - Google マップ](#)



竜は、ヴァヴェル城外、ビスワ川側にいる。炎はガスを吹き出しながら着火する仕組みで、シューッとガスの噴出音がした1,2秒後に炎が数秒間見える。約3分おきに炎を吹いてくれる。
竜の口元に揺らめく炎は、話のネタになります。

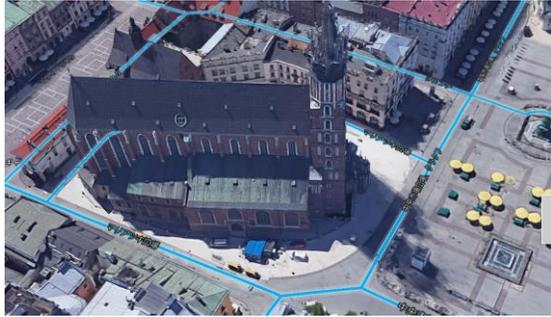
ヴァヴェルの竜



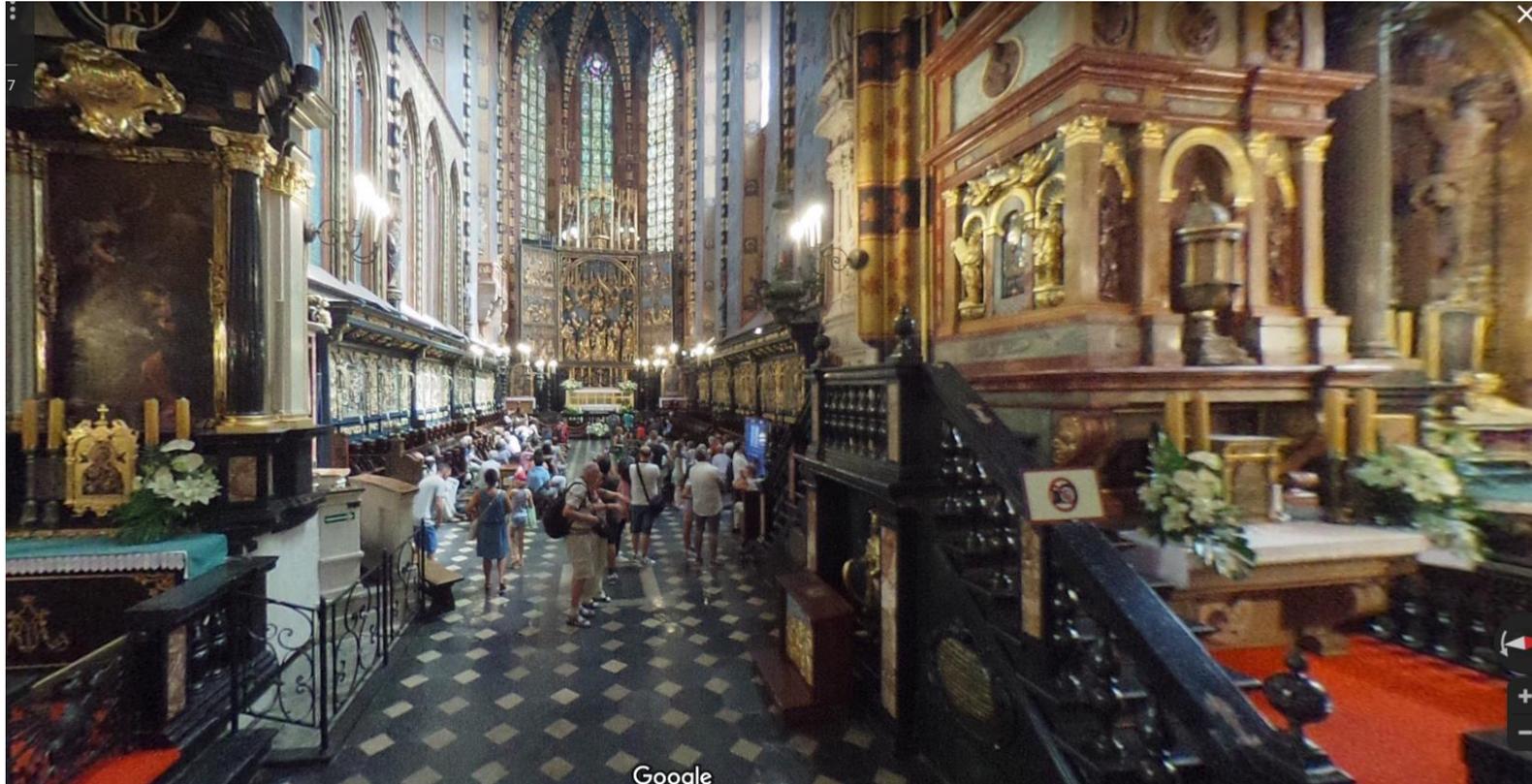
[ヴァヴェル城 - Google マップ](#)



聖マリア聖堂 - Google マップ



歴史的な街並みが世界遺産に登録されているポーランドの古都クラクフ。クラクフ旧市街の心臓部、中央広場にあるのが「ポーランドで最も美しい教会」ともいわれる聖マリア教会です。

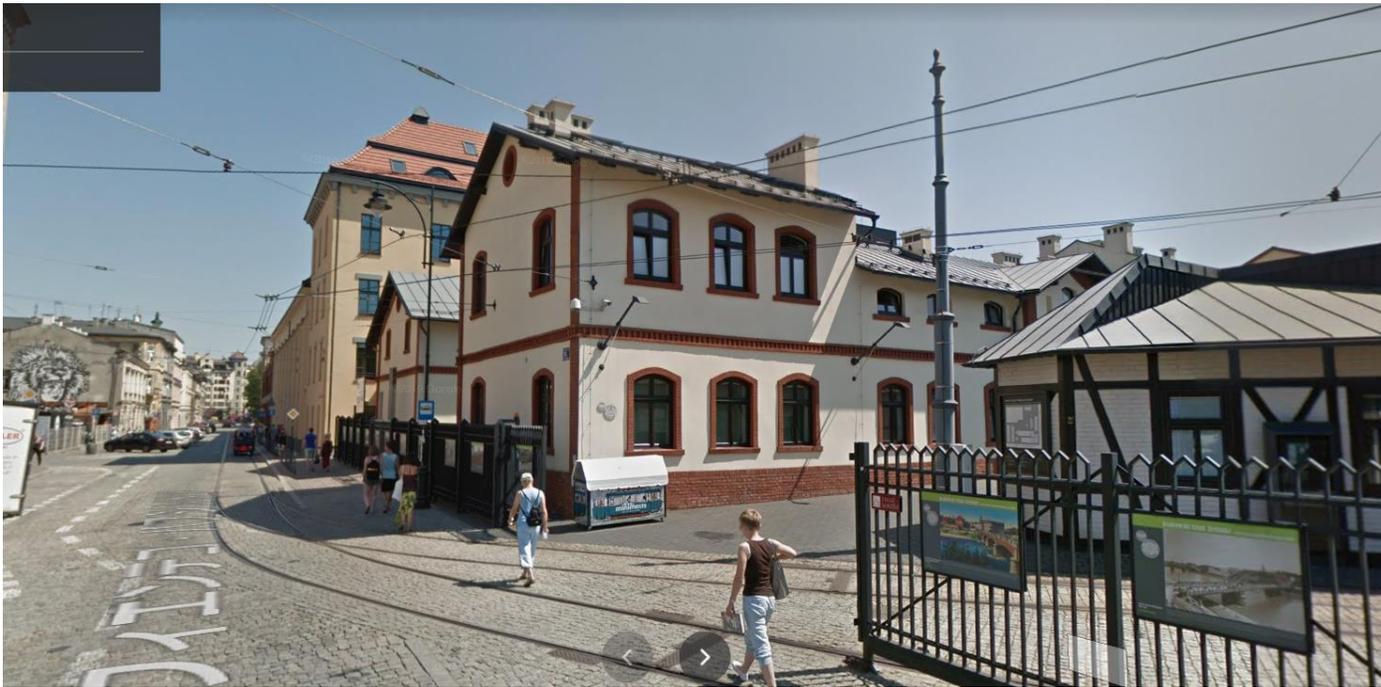


1222年に建設されたゴシック様式の教会で、天を射貫くようにまっすぐ伸びる2本の尖塔が印象的。その昔モンゴル軍がクラクフを襲撃した際に、それにいち早く気づいたラッパ手が敵の襲来を告げるためこの塔からラッパを吹き鳴らしました。しかし、モンゴル兵が放った矢がラッパ手の喉を貫き、ラッパ手は亡くなってしまったのです。

それを悼んで、14世紀から現在にいたるまで一時間ごとに塔からラッパが吹き鳴らされています。「ヘイナウ・マリアツキ」と呼ばれるこのラッパの音は、今となってはクラクフを訪れる人々を中世の世界へといざなってくれる音色。古都クラクフを象徴する情緒あふれる音色なのです。

[12 シフィエンテゴ・バブジンツァ - Google マップ](#)

カジミェシュ地区(旧ユダヤ人街)



カジミェシュ地区(旧ユダヤ人街)

クラクフには、かつて多くのユダヤ人が住んでいました。中世の頃、西欧で迫害を受けたユダヤ人が、宗教的寛容政策をとっていたポーランドに移り住んできたからです。とりわけユダヤ人が多く住んでいたのが14世紀ごろに歴史をさかのぼるカジミェシュと呼ばれる地区です。

カジミェシュはプラハのヨゼホフに次いで世界で2番目に大きく貴重なユダヤ文化遺跡の集合体です。ここには、いくつかのシナゴグ（最も古いものは15世紀建立）や住宅、そして16世紀来のユダヤ人墓地があります。

カジミェシュをさらに南下しヴィスワ川を渡ったところにはポドグージェ（Podgórze）地区があります。ここには戦時中ゲッターが設置されていました。戦後、街並はすっかり荒廃してしまっていたのですが、近年次々と修復が進み、シナゴグ（ユダヤ教の寺院）やユダヤ人墓地のほか、ユダヤ人街の昔ながらの店構えを再現した一角や、ユダヤ料理店、ホテルなどが並び、独特の雰囲気を持つ観光地として甦りました。スピルバーグ監督の映画「シンドラのリスト」によって一躍有名になったシンドラのエナメル工場があったのもこの地区で、工場は修復され、近い将来博物館としてオープンする予定です。

アウシュヴィッツ強制収容所

20世紀最大の悲劇が起きた地、アウシュヴィッツ。

第二次世界大戦時にナチス・ドイツがポーランドに建設したアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所では大量のユダヤ人やポーランド人が収容され、過酷な強制労働や虐殺により110万人以上の人々が命を奪われました。

この地に足を踏み入れれば、当時の過酷な生活と歴史を学ぶことができます。ソ連軍により解放されるまで惨劇が続いたこの跡地は、二度と繰り返してはならない人類の「負の遺産」として1979年に世界遺産にも登録されています。

今も残る広大な跡地と博物館を見学できる。

ホロコーストと強制収容所の歴史



収容所の'死の門'へ、囚人たちが送り込まれるのに使われた線路

ガス室の跡



ヴロツワフ

- ポーランド西部にある第4の都市で、ドルヌィ・シロンスク県の県都
- 歴史的にシロンスク地方の中心都市で、ポーランドの中でも最も古い都市のひとつである。
- 市内にはオドラ川とその支流が流れ、200以上の橋が架かっている。
- ヴロツワフは歴史上、様々な国（ポーランド王国、オーストリア帝国、ドイツ、ハンガリー、プロイセン、ボヘミア）の一部となっていたが、1945年（第二次世界大戦後）にポーランド領となった。
- ヴロツワフは、UEFA欧州選手権2012開催都市の一つとなった。
- また、2016年には欧州文化首都となり、2017年にはワールドゲームズ2017の開催地にもなった。



小人の街ヴロツワフ

小人の街ヴロツワフ。街中にたくさんの小人がいます。

銅像とはいえとっても小さいので、それなりに目を凝らして探さないと見つかりません。

観光名所ではかなりの確率で見つけることができます。



Wyspa Bielarska - Google マップ



グダニスク

グダニスクは、ポーランドの都市。バルト海南部に面するポモージェ（ポメラニア）地方東部に位置し、グダニスク湾を擁するポーランド最大の港湾都市であり、ポモージェ県の県都である。第二次世界大戦後に再建された中心街の中央には、色とりどりのファサードが並ぶロングマーケットがあり、店やレストランが軒を連ねています。近くの広場には、海神のブロンズ像をしつらえた17世紀のネプチューンの噴水があり、街の象徴的な存在となっています。グダニスクは世界的な琥珀産業の中心でもあり、琥珀製品を取り扱う店が街のあちこちにあります。



1 ロングマーケット - Google マップ

